



§1 アザミウマ類の生態と被害と対策について

野菜、果樹、花などさまざまな植物を餌として発生するアザミウマ類(漢字では「薊馬(アザミウマ)」、英語ではThrips(スリップス))は、成長が早く繁殖力が強く、ウイルス病を媒介することもあり、とても厄介な害虫です。4~10月の、特に高温で乾燥した時期に発生しやすく、集団で農作物を吸汁し加害します。殺虫剤への抵抗性もつきやすく、条件がそろえば次々に増殖し防除するのが困難となります。今月はこのアザミウマ類についての基礎知識とその防除対策についてご紹介します。

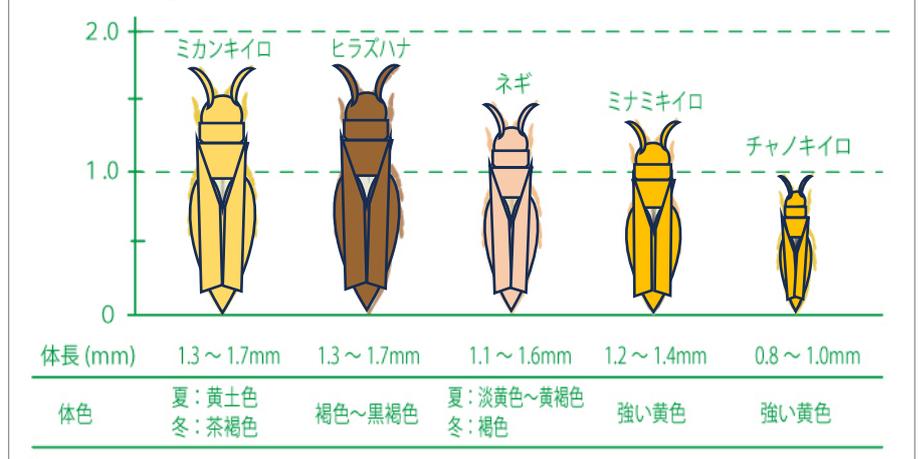
<生態の特徴>

成虫は、黄色・褐色・黒色系で、頭部から2本の触角が伸びており、体長1-2mmと小柄で、扁平からやや円筒状の細長い形が特徴です。生育サイクルは15~45日ほどで、10日から2週間で卵→幼虫→蛹→成虫と成長します。葉や花弁などの組織内に産卵し、幼虫は加害しながら時期をみて葉から土壌へ落下し、土中で蛹になるため、寄生されていてもわかりにくく、また化学農薬の殺虫剤も効果が低く、また、成長サイクルが速いため薬剤抵抗性も発達しやすい厄介な性質があります。

<被害の特徴>

草花、野菜、果樹、花木あらゆる植物に寄生し、群がって加害します。植物の花粉を好んで食べ、細長い針を刺して内部の汁を吸い取り、食害された植物は、傷がつきかすり状に色が抜け、葉全体が斑点状に白や黄色に変化したり、花弁が変色します。株全体に蔓延して枯れる場合や、新芽が褐変したり、実が大きくなったり、花が咲かなくなるなどの症状が現れます。また、トマト黄化えそウイルス(TSWV)やメロン黄化えそウイルス(MYSV)などのウイルス病の媒介になることもあり注意が必要です。

アザミウマ5種の体長と特徴



<加害するアザミウマの種類>

1. ミナミキイロアザミウマ

体長1mm程度で、橙色をしています。年10回以上発生する可能性があります。寒さが苦手なため、路地で越冬しにくく、冬場はハウスなどの施設内で発生します。春に葉裏・葉脈に産卵し幼虫が葉裏に寄生し、葉や果実を吸汁し被害を与えます。ナス科やウリ科などの果菜類に寄生し、葉にかすり状の白っぽい斑点が見られ、次第に褐変し、肥大前に寄生されると、傷がついて奇形の原因にもなります。メロンやキュウリでメロン黄化えそウイルスを媒介します。

2. ミカンキイロアザミウマ

体長1.4-1.7mmと大型で、橙黄色をしています(冬場は褐色個体が増えます)。花粉を好み、花き類や果菜類に寄生します。



トマトなどを好み、葉裏に黄色い斑紋や褐変、光沢を帯びた黒い小規模斑点が確認されます。黄化えそ病を媒介します。

3. ネギアザミウマ

体長 1.5mm前後。夏は淡い褐色、冬は濃い褐色となります。

寒さに強く、広食性が高いです。

ネギ類に寄生することが多く、葉の全体に白いかすり状の斑点が見られます。葉全体が白化し、光合成が阻害されるため、作物の生育不良や収量、品質の低下につながります。アイリス黄斑ウイルス(IYSV)などのウイルスを媒介し、ネギ類に「えそ条斑病」を引き起こすことがあり、これがさらに品質低下の原因となります。



4. チャノキイロアザミウマ

体長 0.8-0.9mmと小ぶりで、比較的明るい黄色。年間5～8回発生します。

柑橘類、柿、ブドウなどの果物、お茶、アジサイ、ナス科(ナス・ピーマン)、ウリ科(キュウリ)、バラ科(モモ・ナシ)に寄生します。

果樹は吸汁加害されると果皮にリング状の灰白色の傷ができます。

また、新梢が加害されると葉が委縮したり、成長が止まったりします。



5. ヒラズバナアザミウマ

雌は体長 1.5mm程度で褐色をしており、雄は黄色です。

花粉を好み主に花に寄生し、ナス、キュウリ、キャベツ、トマト、イチゴ、トルコギキョウなど、多くの作物に被害を及ぼします。特にトマトでは、産卵により果実に白ぶくれ症を引き起こし、品質を低下させ、イチゴでは果実の表面を褐色化させたり、肥大不良を引き起こすことがあります。



<防除方法>

- 1) 防虫ネットを張る: 網目が 0.4-1mm 程度のネットを被覆します。赤色は効果大です。
- 2) 紫外線除去フィルムを設置: アザミウマの可視領域の紫外線をカットして侵入を防ぎます。
- 3) 天敵製剤の利用: アザミウマを捕食する天敵昆虫を使用します。使用時期・防除のタイミングが大切です。
- 4) 殺虫剤散布: 薬剤抵抗性を考慮して効果のある薬剤を使用します。アザミウマの種類によっても効果が異なるので、まずはアザミウマの種類を特定することが大切です。
- 5) 粘着トラップの設置: 黄色や青色の粘着トラップにて予察や補殺を行います。
- 6) 白マルチやシルバーマルチの設置: 太陽光を反射させることで活動を減少させます。
- 7) LED光による誘因

	特徴的な加害箇所 (吸汁する箇所)	発生	ウイルスの媒介、他
ミナミキイロアザミウマ	葉裏の葉脈沿い、 果実のへた周辺部	露地栽培: 5～10月(特に7～8月に発生が多い)	メロン黄化えそウイルス、スイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。多くの殺虫剤への抵抗性あり。低温に弱い。
ネギアザミウマ	葉	露地栽培: 5～7月(特に5～7月に発生が多い)	アイリスイエロスポットウイルスを媒介する。耐暑性と耐寒性がある。
ミカンキイロアザミウマ	花粉、花卉、新芽、 新葉	露地栽培: 周年(特に5～6月、9～10月に発生が多い)	トマト黄化えそウイルスを媒介する。多くの殺虫剤への抵抗性あり。耐暑性と耐寒性がある。
ヒラズバナアザミウマ	花粉、花卉、新芽、 新葉	露地栽培: 4～11月(特に5～6月、9～10月に発生が多い)施設栽培: 周年	トマト黄化えそウイルスを媒介する。
チャノキイロアザミウマ	花粉、花卉、新芽、 新葉、果実	露地栽培: 4～11月(特に7～8月に発生が多い)	トマト黄化えそウイルスを媒介する。